



- 第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
- 第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
- 第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター
- 第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト
- 第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長【一級建築士】
- 第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
- 第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」/長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長
- 第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
講師/針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回 長野バルセイロ ---- 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バドウ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン
- 第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回 循環備蓄型の農業の実践 --- 宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる --- 平成21年6月3日
講師/塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回 信州の伝統から生まれる食文化ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師/宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
- 第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころしよ/代表理事

- 第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川了洋さん AC長野バルセイロ新監督
- 第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役
- 第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回 Go to J〜Jを長野にーいよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師/鈴木政一さん 長野バルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

- 第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)
- 第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日
講師/マブソン青眼さん 俳人・比較文学者

- 第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

- 第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸淳男さん 信越放送取締役相談役

- 第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営

- 第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武陸会 会頭

- 第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

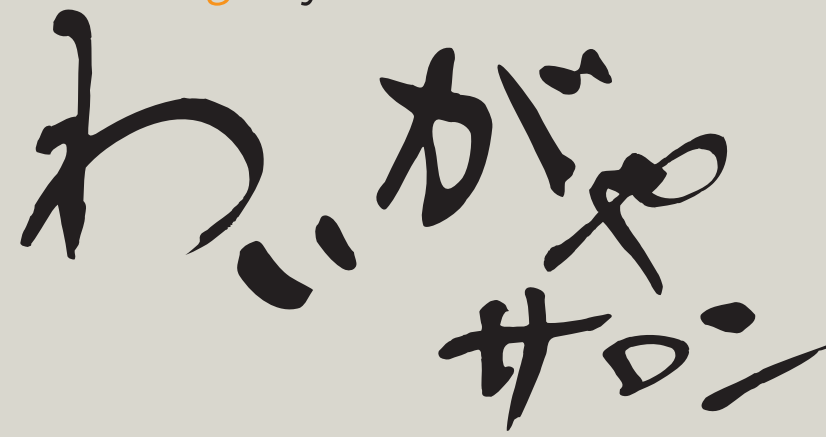
- 第36回 すべてが一丸となって`ながのの宝もの。をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川 了洋さん AC長野バルセイロ監督

- 第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山義光さん 日本野鳥の会長野支部会員

- 号外 門前まち花遊歩 一牛に引かれて善光寺参りー 平成24年9月1日




 Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所
 〒380-0834長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
 TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
 www.nupri.or.jp
 e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 38
2012.10



第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法

平成24年9月27日(木) 15:00~21:00

講師／塩澤研一さん 農業生産法人(株)水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事

■座長 岩野 彰 場所／水輪ナチュラルファーム TEL.026-239-2630

NUPRI新産業創出部会の活動方針「自然農法の啓蒙」に基く9月のわいがやサロンは、いつもの会場を飛び出して飯綱高原にて開催。長年自然農法に取り組んでいる塩澤研一さんからお話をお聞きしました。

飯綱高原での自然農法

30年程前に自然の中で心を見つめようと飯綱高原へやって来て、無農薬で野菜を作り始めました。農薬を使わないから虫が畑にワッと来る。穴だらけになった野菜でも安全なんだからいいと思っているうち、いくら肥料を入れても耕してもほとんど作物が出来ない状態に。福岡正信が提唱する不耕起自然農法(耕起・施肥・除草・病虫害防除を全て否定)を3年間試みたものの駄目で、山菜畑に転換しましたが、山菜は春の1、2か月だけで終わってしまうという難点。そのころ別の自然農法の提唱者である川口由一さん(耕起・施肥・病虫害防除を否定。人力による除草は肯定)に出会い、3年間毎月来てもらって勉強しました。いわゆる自然農法の実践者は今の2人に加え、岡田茂吉(無肥料、耕起・自然堆肥・人力による除草を肯定)、木村秋則さん(無農薬・無肥料栽培の「奇跡のりんご」で有名に)が代表的ですが、農業はその場所の条件すべてが絡み合うものですからお手本どおりにはいかないですね。結局、川口さんの方法と自然農法国際研究開発センターが提唱する方法を統合したやり方—無農薬・不耕起・不除草・有機肥料不使用(動物性堆肥を使わず、畑の残渣を利用)—でやっています。



しおざわ けんいち 1947年生まれ、長野市出身。77年、福祉の活動団体を立ち上げる。81年、飯綱高原に移住。無農薬で野菜作りを始める。2003年、農業生産法人(株)水輪ナチュラルファームを設立。わいがやサロンへは3年ぶり2回目の登場

自然のリズムに合った農業

有機農法なら安心、有機肥料はいい、という考え方がありますが、果たしてそうでしょうか？ 有機肥料を施した畑は臭い、ハエや蚊がやってくる、と周囲から苦情が出ます。それ以上に、有機肥料には動物に与えたホルモン剤が畑に入っていく等、危険性がある。学校で作物には窒素・カリ・リンが必要と教わったと思いますが、人工的に肥料を施すことが必要なのか否か、施肥量で比較したら栄養価は変わらないという結果が出たそうです。作物は自然の中で必要な成分は補っているのです。

晴耕雨読という言葉があるように皆さんは、農業は耕して何ほと思っていないですか？ ここでやっているのは不耕起、といっても一度は耕します。既存の畑を掘り下げていくと地温が下がっているところがある。肥料の毒素がたまって固くなっているのです。それを除去するために深掘りはします。その後、養生すると、生える草の種類がハコベなどホワホワしたものに変っていく。草は自ら有機物を生産し、地温の安定・土壌浸食の抑制・土の団粒化促進などさまざまな役割を果たす。草や虫を敵としない農法こそ、地球と調和した循環型生産活動といえるのではないのでしょうか。

「奇跡のりんご」が腐らないことが話題になりました。普通売られているイチゴは3日ともたないですよね。自然農法で栽培したイチゴは1か月おいても腐らず、涸れていきます。ここで作った農作物も腐らず、長期間をおいても変な臭いがしてきません。森の中を歩いて嫌な臭いがしないのと同じで自然のリズムに適っているからです。木村さんは毎日自分の畑を歩いていると、作物の音が聞こえると言っています。私も毎朝畑を歩くと確かに、健全な土壌を育てれば病虫害や雑草害は自ずと減少し、質の高い作物の安定生産が可能になってきました。農業は本を読んでも半分役立つかどうかの仕事、作物に声をかけ、観察することにより最終的には自分で農法を判断するしかありません。

活力ある野菜、人が生きる力

私どもの公益財団法人いのちの森文化財団は多くの賛同者により、(株)水輪ナチュラルファーム、(有)グリーンオアシス(宿泊・飲食施設)など5つの法人を維持し、いのちの森文化構想を進めています。たとえば、社会に適応出来ず苦しんでいた若者たち(スタッフ・実習生)が、農業という自然のリズムなしには成り立たない仕事によって、世のため人のために体を動かし、生きていてよかったという実感を体験する場がいのちの森です。

このあたりは飯綱山からの湧き水が出、自然農法に恵まれた土地で、トトロ、に出てくるような森もあります。しかし長野市のほかの中山間地と同じく、高齢化・過疎・農地の荒廃が進んでいます。去年は10~20年ほったらかしになっていた水田を借りて、実習生たちと力を合わせて米作りに挑戦。荒廃した場所を田んぼに戻すのは大変な作業でした。それも都会出身の若者たちがやるのですから。そのうち地主さんらご近所の方々が「何やってるだ？」と興味を示し、畔作りを教えてくださいトラクターを貸し出してくれるように。除草剤を使わず、鎌を撒きました。秋には米を2トン半収穫。12月、地主さん方を招き、収穫した野菜や米でご馳走しました。

収穫物は全国の安心安全な野菜を欲している方々に定期便発送するほか、グリーンオアシス利用者に食べていただいています。3・11後には、福島県南相馬市の被災保育園2か所に野菜を届ける支援活動も始めました。自分がしていることが誰かに喜ばれた—それを実感する日々こそ、この若者だけでなく、誰しもの活力なのではないでしょうか。

ナチュラルファームは、農法も活動も料理もすべてクローズしません。多くの方に来て見て、知ってほしいと思っています。

学習会(15~18時/畑・施設見学含む)後の懇親会では、農園で実った野菜・米等を使った心づくしの料理を味わい、実習生・スタッフ全員によるスピーチも。夜の帳につつまれ、気温下がった飯綱高原をあとにしたのでした。



不除草の畑地で健康に育つ作物。一般慣行農法と比べると、形が対称性に優れ、葉は柔らかな厚み・小ぶり、保存しても腐らない等の特徴がある



「畑や野菜に対する思いやり、一生懸命を超えた何かが野菜の本当の味を引き出す」と塩澤さん



素材の旨みを生かした野菜料理の数々